

(「書面であれば対応が可能」である場合の書面での意見様式)

(公益社団法人)全国大学体育連合

## 1. 団体において取り組まれているスポーツ振興に向けた取組状況・成果

本法人は、大学教育における体育(保健教育及びスポーツを含む。以下同じ。)に関する研究調査を行い、FD 活動支援、会員相互の体育活動の評価と表彰を行い、大学教育の発展への寄与を目的とし、前条の目的を達成するため、次の事業を行っております。

1. 大学教育における体育に関する調査・研究および助成
2. 大学教育における体育に関する研究会、研修会、協議会およびその他の催しの開催
3. 大学教育における体育に関する内外の情報、資料の収集および提供
4. 大学教育における体育に関する評価と表彰
5. 大学教育における体育に関する機関誌、図書等の刊行
6. 内外の体育関係諸団体との連絡および協力
7. その他、法人の目的を達成するために必要な事業

本法人の主な具体的活動を以下に記します。

1. 中央研修会、支部研修会、総会講演会、シンポジウムの開催
2. 体力測定データ、授業評価データ、等の調査研究活動
3. 教育研究補助金、研修会開催補助金の研究助成事業
4. 全国大学体育連合賞、大学体育教育賞、大学体育研修精励賞、大学体育優秀論文賞、大学体育 FD 推進校表彰の顕彰事業
5. 機関誌「大学体育」の発行
6. 教育研究論文誌「大学体育学」の発行
7. スポーツ教材等の刊行物の発行
8. ホームページによる研修会・シンポジウムの情報、研究助成・顕彰事業の告知、活動報告、刊行物、教員公募等の公開
9. メールニュースを活用し、研修会・シンポジウムの情報、研究助成・顕彰事業の告知、教員公募等の会員への情報発信および会員相互の情報交換
10. ワールドマスターズゲームの後援団体として、2022 年度実施の同ゲームに対する支援および協力

## 2. 現状団体において抱えている課題

### 1. 男女共同参画問題の件

社会情勢が目まぐるしく変化する現代社会において、男女は対等な社会の構成員として、性別に関係なく、個人がお互いの人権を尊重し、責任を分担し、それぞれの個性と能力を十分に発揮する機会を確保されることが求められています。今後は、グローバル化とユニバーサル化に対応・推進していくため男女の隔てなく、21世紀を先導する人材を積極的に育成・登用し、活動継続を発展・進化させていくことが不可欠です。

以上の観点から、全国大学体育連合は男女共同参画の積極的な推進を宣言します。

〈基本方針〉

- 1 教育・研究・研修の場において、個人としての能力を発揮する機会を確保する。
- 2 本法人の意志決定において、男女共同参画を推進する。
- 3 地域社会・国際社会との連携を通じて男女共同参画を支援する。
- 4 男女共同参画の啓発活動を推進する。

以上の男女共同参画宣言を2012年3月出しましたが、十分推進がなされていません。

現状を鑑みて新たに強力に推進すべきと考え、本年4月本連合常務理事会で、男女共同参画プロジェクトチームの発足を決定しました。

### 2. 業務のICT化問題の件

「Information and Communication Technology」を本連合では、最も重要な改革点として認識しています。業務のICT化で、仕事や時間に柔軟性をもたせ、効率化に繋がります。

業務へのICT導入で、毎日出社する必要はなくなり、離れた場所でも高速で正確な情報伝達が可能となります。ICTを利用すれば距離が離れた相手とでもコミュニケーションを行い、業務に必要な情報を集約させ、リアルタイム会議などもできるようになります。

業務にICTを活用すれば情報共有が容易になります。取得できるだけでなく、情報の書き込みもスマホやタブレットなどから可能です。

本連合は、諸業務を抱えておりますが、ICT化で効率的運営を実施可能と考えます。

### 3. コロナ禍の大学体育授業のオンラインによる授業および講習会の構築の件

現在、コロナ禍においてオンライン授業の重要性が問われています。特に、対面の指導が重要な要素と考えられている体育・スポーツでは、まさに喫緊の課題と言えるでしょう。

本連合では、現在も対面における講習会を中心に実施してきましたが、オンラインによる授業および講習会の企画・立案を急務ととらえ、本連合加盟某大学の先進的なオンライン授業を周知するとともに、コロナ禍にある本連合加盟校に緊急アンケートを実施しました。そのアンケート結果を踏まえ、現在進行形で体育・スポーツのあるべきオンライン授業を模索したいと考えています。

## 第3期計画に期待すること

① 大学生をコアとするスポーツ振興の重要性の盛り込みを期待しています。

その際に、一般学生のためのスポーツ拡大施策がもっと議論されるべきであり、そのフィールドとして大学体育がより活用されるべきものと考えます。その実現のためには、正課体育・課外活動としてのスポーツをキャンパス内で活性化する基盤をまず整えた上で、その後に社会的に拡大していく生涯スポーツにつながる振興策を強く大学に求めていただきたいと存じます。正課体育と課外活動の学生の皆さんのスポーツ全般を下支えする大きなうねりがあればこそ、学生界のトップスポーツ選手の活動も光輝き、その恩恵は多くの一般学生のスポーツへの関心と興味をひくことにつながるのではないのでしょうか。

一般学生のスポーツ活動が、そのまま生涯スポーツへと続く参加拡大につながるものとするれば、「する」、「みる」、「支える」、それぞれのスポーツ参画人口の拡大に有機的につながる可能性は高くなることでしょう。

② スポーツや運動に対する考え方が、コロナ禍において多少変わってきたように感じます。

スポーツへの参加自体に戸惑いを感じるだけではなく、スポーツへ参加している人を見て、「コロナ禍が拡大する状況の今、本当にスポーツをやっているいいのであろうか」と疑問を呈する人が現れている現状があります。

「する」、「みる」、「ささえる」等のスポーツ参画人口の拡大を目的として、大学のみならず、一般社会における生涯スポーツの実施を促進できるような具体的方策が示されるならばより建設的であると考えます。

以上